

各位

三神地域農業指導者連絡会作物部会
三神農業振興センター

「稲・大豆作情報（第2号）」について（送付）
このことについて、下記のとおり送付しますので、業務の参考にして下さい。

稲・大豆作情報（第2号）

1. 情報田生育調査結果について

（1）耕種概要

| 品種名 | 夢しずく (上峰町) | さがびより (みやき町) | ヒヨクモチ (神崎市) |
|-------------------------|-------------------|--------------------|--------------------|
| 移植日(月日) | 6月11日 (平年:6/9) | 6月18日 (平年:6/20) | 6月23日 (平年:6/19) |
| 栽植密度(株/m ²) | 15.6 (52.1株/坪) | 16.8 (55.9株/坪) | 18.7 (62.2株/坪) |

（2）調査結果（夢しずく：7月12日現在、さがびより・ヒヨクモチ：7月13日現在）

| 品種名 | 夢しずく | さがびより | ヒヨクモチ |
|-----------------------|------------|------------|------------|
| 草丈(cm) | 67.7 | 38.1 | 29.9 |
| 平年値(平年比) | 57.9(117) | 38.5(99) | 34.1(88) |
| 莖数(本/m ²) | 262 | 137 | 108 |
| 平年値(平年比) | 303(87) | 230(59) | 356(30) |
| 葉齢(L) | 9.2 | 7.9 | 7.3 |
| 平年値(平年差) | 9.1(+0.1) | 8.5(-1.2) | 8.8(-1.5) |
| 葉色(SPAD値) | 38.7 | 36.7 | 35.8 |
| 平年値(平年差) | 41.3(-5.2) | 40.6(-6.2) | 41.0(-5.2) |

概況

気象（7月7日～12日までの期間）

【平均気温】平年より0.6℃高い。

【日照時間】日年比43%と短い。

【降水量】平年比407%と多い。

生育（平年と比較して）

草丈：「夢しずく」は高く、「さがびより」は平年並、「ヒヨクモチ」は低い。

莖数：全品種で少ない。

葉齢：「夢しずく」で平年並、「さがびより」「ヒヨクモチ」は遅れている。

留意点

「さがびより」は移植後1週間頃から、「ヒヨクモチ」は移植直後から降雨が多く、浸冠水および深水が続いた影響による莖葉の損傷や生育の停滞がみられる。

注1)「夢しずく、さがびより」の平年値は、過去7か年の数値を7月12日又は13日に換算し、そのうち最高、最低を除いた5か年の平均値。

「ヒヨクモチ」はR1,2年データ欠損のため、平年値はH28～R4(R1,2除く)5か年の平均値。

注2)ラウンドの都合で小数点以下が一致しない場合がある。

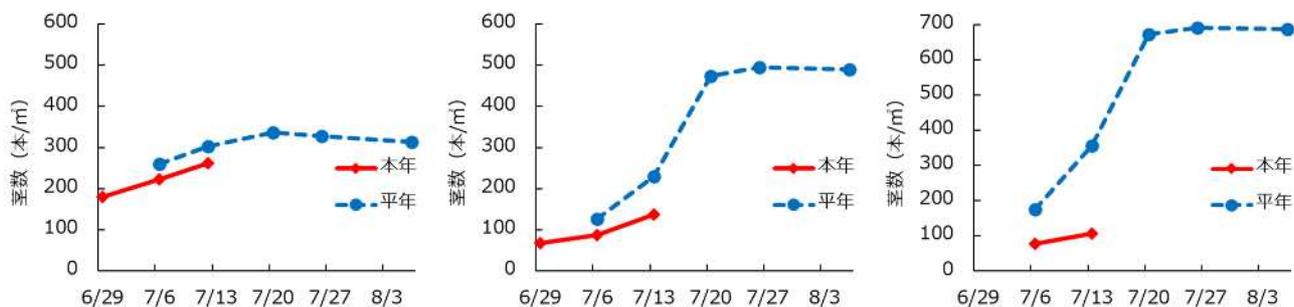


図 茎数の推移 (左：夢しずく、中：さがびより、右：ヒヨクモチ)

農業試験研究センター米づくり情報2号 7月10日(抜粋)

本年産水稻の生育状況(7月10日)

| 移植日 | 項目 品種 | 年次 | 草丈 | 茎数 | 葉齢 | 葉色 | 概況 (平年と比較して) |
|--------|---|--------|------|------|------|------|--|
| | | | cm | 本/㎡ | L | SPAD | |
| 6月19日 | 夢しずく | 本年 | 36.2 | 211 | 7.4 | 34.8 | 【気象】7月2日～9日まで ◆平均気温…平年より0.8℃高い ◆日照時間…短い(平年比 51%) ◆降水量…多い(平年比 256%) 【生育】 ◆草丈 「夢しずく」「ヒノヒカリ」は平年並み、「さがびより」はやや低く、「ヒヨクモチ」はやや高い。 ◆茎数 「夢しずく」は平年並み、他の品種は少ない。 ◆葉齢 「夢しずく」「さがびより」は平年並み、「ヒノヒカリ」は遅れており、「ヒヨクモチ」は進んでいる。 ◆葉色(SPAD値) 「ヒヨクモチ」はやや高く、他の品種はやや低い。 |
| | | 平年 | 36.3 | 209 | 7.5 | 35.8 | |
| | | 平年比(差) | 100 | 101 | -0.1 | -1.0 | |
| | ヒノヒカリ | 本年 | 29.8 | 204 | 6.8 | 35.8 | |
| 平年 | | 29.9 | 277 | 7.7 | 37.5 | | |
| 平年比(差) | | 100 | 74 | -0.9 | -1.7 | | |
| 6月20日 | さがびより | 本年 | 30.5 | 164 | 7.5 | 37.2 | |
| | | 平年 | 31.5 | 200 | 7.5 | 38.6 | |
| | | 平年比(差) | 97 | 82 | ±0 | -1.4 | |
| | ヒヨクモチ | 本年 | 29.2 | 254 | 8.3 | 40.0 | |
| 平年 | | 28.5 | 289 | 7.7 | 39.2 | | |
| 平年比(差) | | 102 | 88 | +0.6 | +0.8 | | |
| 留意 | ○ 根の健全化のため、一旦落水し、土壌へ酸素を供給する。 ○ 落水後は浅水管理とし、茎数確保に努める。 ○ ヒノヒカリ、ヒヨクモチ等の追肥の必要な品種では、時期を選しないように注意する。 | | | | | | |

2. 普通期水稻の今後の管理について

寡照条件が続いている為、中晩生品種を中心に水稻が軟弱徒長傾向で推移している。また、大雨により深水管理が続き、スクミリンゴガイによる食害の発生や土壌の酸素不足、分けつの発生抑制がみられる圃場が多い。

今後は、落水や浅水管理を徹底して、分けつを確保し、スクミリンゴガイ食害と土壌の還元化の防止を図る。

(1) 水管理

- 分けつの確保及びスクミリンゴガイの食害回避のため、浅水管理を基本に行う。
- 深水で経過した圃場やガスが沸いている圃場では、土中の酸素が不足し、根の伸長と養分吸収が阻害されている恐れがある。このような圃場では、1～2日の落水(地干し)と数日の浅水管理を繰り返し、土壌の還元化を抑制する。
- 1株あたり茎数が確保できた圃場は落水し「中干し」を実施する。
- 中干し後は、間断灌水(断水期間をやや長く行う)を行い株元の地固めに努める。中干しは、土が軽い亀裂が入り足跡がわずかにつく程度とする。

・中干時期の目安は以下のとおり

①「夢しずく」

移植が6月10～14日頃の圃場では7月中旬頃から。

1株あたり茎数が18本以上。

②「ヒノヒカリ」・「さがびより」・「天使の詩」・「ヒヨクモチ」

移植が6月20日頃の圃場では7月下旬から。

1株あたり茎数が20本以上。

本年は初期分けつが少ない傾向のため、茎数を確認してから実施し、強い中干しは行わない。

～中干しの効果～

- 無効分けつの発生を抑制する
(過繁茂防止、生育量の適正化)
- 田面を固める
(収穫作業と麦播種作業の効率化)
- 土壌中に酸素を送り、根の活力UP、有害ガスの除去

土は黒く軽くヒビが入る程度



(2) 追肥

・「ヒヨクモチ」は、間もなく中間追肥の時期を迎える。

元肥にLP肥料や元肥一発肥料等を使用した圃場以外では、下の表3を参考に圃場の生育状況に応じ、中間追肥を施用する。

表3. 「ヒヨクモチ」の中間追肥時期

| 品種名 | 移植時期 | 中間追肥の時期 | 施肥量の目安 |
|-------|----------|-----------|-----------|
| ヒヨクモチ | 6月18～20日 | 7月15～20日頃 | 地区暦に準じて行う |

※元肥に有機肥料を使用した圃場や大豆跡は中間追肥を除く。

(3) 穂肥

・夢しずくは7月下旬頃から穂肥の施用時期を迎える。

必ず「穂肥診断」(葉色と幼穂長を確認)を実施し、下の表4を参考に穂肥を施用する。

・葉緑素計 (SPAD) で葉色 40 以上又は草丈 80cm 以上の圃場で穂肥は施用しない。

表4. 夢しずくの穂肥診断基準

| 幼穂形成始期草丈 | 葉色 | | 施用時期 | | 穂肥施用量 | 現物量(BB602) | |
|----------|------------|-------|--------|-----|-------------|------------|------|
| | 群落 | 葉緑素計 | 出穂前 | 幼穂長 | 窒素成分 kg/10a | 山麓 | 平坦 |
| 73cm 以下 | 3.0 以下 | 34 以下 | 20～22日 | 1mm | 3.0 | 20kg | 15kg |
| | 3.0～3.5 | 38 以下 | 18～20日 | 2mm | 3.0 | 20kg | 15kg |
| | 3.5～3.8 | 38～39 | | 2mm | 1.5～2.0 | 10kg | |
| | 3.8 以上 | 40 以上 | 18日 | 2mm | 1.0 以下 | 7kg | |
| 73～79cm | 3.0～3.5 | 34 以下 | 18～20日 | 2mm | 1.5～2.0 | 10kg | |
| | 3.5～3.8 | 38～39 | 18～20日 | 2mm | 1.0 | 7kg | |
| | 3.8 以上 | 40 以上 | | | 施用しない | | |
| 80cm 以上 | 原則として施用しない | | | | | | |

表5. 穂肥時期の目安

| 移植時期 | 穂肥の目安（平年） | 出穂期（目安） |
|--------|-----------|----------|
| 6月10日 | 7月23～25日 | 8月14日前後 |
| 6月15日～ | 7月25～27日 | 8月16～17日 |

注1) 早すぎる穂肥 → 止葉が伸び、倒れやすく、籾数が多すぎて登熟が悪くなる
遅すぎる穂肥 → 籾数が少なく、減収し、米の蛋白含量が高く食味が落ちる

注2) 多すぎる穂肥 → 倒れやすく、籾数が多く登熟が悪く、蛋白含量が高く食味が落ちる
少なすぎる穂肥 → 籾数が少なく、減収し、米がやせて品質が落ちる

注3) 中干し直後に葉色が淡く草丈が低い圃場についても、中干しの乾土効果（土壌中の有機体窒素が分解によって水稻に吸収される形になる）により、急激に葉色が濃くなる場合があるため、圃場の状況に合わせて散布する。

(4) 病虫害防除について

①海外飛来性害虫

- ・7月11日現在、ウンカ類（セジロウンカ、トビイロウンカ）は、梅雨の前線に伴う飛来（6/30～7/11）が県西部で確認されている。
- ・トビイロウンカの発生予測図については梅雨明けをめどに発信される予定である。
- ・今後、発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を農業技術防除センターのホームページで確認し、適期防除に努める。

佐賀県 農業技術防除センター 

②いもち病

- ・本田で新たな病斑の発生が認められた場合は防除を検討する。
- ・補植用の苗を圃場に放置すると、いもち病の温床となるので早急に撤去する。

③スクミリンゴガイの被害について

食害が見られる圃場では、落水～浅水管理で活動を抑制するとともに、必要があれば薬剤防除を実施する。

(5) 除草作業

- ・除草剤が散布できなかった圃場や除草剤処理後に田面が露出した圃場などでは、除草剤の効果が低下したため、雑草の発生が懸念される。
- ・このような圃場で、放置するとヒエや広葉（コナギ・アゼナ）が繁茂し、薬剤による雑草防除が困難となるため、中後期除草剤との体系処理を検討する。

表6. 残草の目立つ圃場での防除方法

| 使用例 | 除草剤名 | 剤型 | 使用時期 | 備考 |
|-------------|---------------|----|------------------------------------|--|
| ノビエの発生が多い圃場 | クリンチャー1 扣粒剤 | 粒 | 移植後 7日～ル I 4L (但し、収穫 30日前まで) | 湛水散布 (3～4日は湛水) |
| | クリンチャーEW | 液 | 移植後 20日～ル I 6L (但し、収穫 30日前まで) | 落水散布。展着剤加用する。 |
| | ヒエクリーン1 扣粒剤 | 粒 | 移植後 15日～ル I 4L (但し、収穫 45日前まで) | 湛水散布 (3～4日は湛水) |
| 広葉雑草 | バサグラン粒剤 | 粒 | 移植後 15日～55日 (但し収穫60日前まで) | <ul style="list-style-type: none"> 落水～ごく浅く湛水散布。最低3日間 (浅水処理は5日間) 入落水しない。 処理後2日以内の降雨があると効果が低下する恐れあり。 高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。 |
| | バサグラン液剤 | 液 | 移植後 15日～55日 (但し収穫50日前まで) | |
| ノビエと広葉雑草の両方 | クリンチャーバスME 液剤 | 液 | 移植後 15日～ル I 5L (但し収穫50日前まで) | <ul style="list-style-type: none"> 落水～ごく浅く湛水散布。最低3日間 (浅水処理は5日間) 入落水しない。 処理後2日以内の降雨があると効果が低下する恐れあり。 高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。 (展着剤加用しないこと) |
| | ハイカット1 扣粒剤 | 粒 | 移植後 15日～ル I 3.5L (但し、収穫 60日前まで) | 湛水散布 (3～4日は湛水) |
| | ワイドアタックSC | 液 | 移植後 20日～ル I 6L | 落水～ごく浅く湛水散布。 (展着剤加用しないこと) |

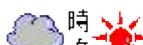
注 1) 除草剤の再散布を行う場合は農薬の使用基準を遵守し、同一薬剤は避けて散布する。
 なお、再散布にあたっては最寄りのJA もしくは農業振興センターまでご相談ください。
 注 2) 除草剤の散布にあたっては、剤により処理時の水管理が異なるため注意する。
 注 3) 薬剤は地区の暦参照 (掲載品目が異なるため)

3. 大豆の今後の管理について

安定・多収を目指すには「出芽・苗立ちの確保」が重要である。
 播種適期を迎えているが、降雨が続き、湿潤状態の圃場が多いため、圃場が耕起可能な条件が整い次第すぐに播種できるように準備を行っておく。

1) 今後の天候について

参考) 週間天気予報 (佐賀県：7月13日11時時点 佐賀地方气象台より)

| 14日(金) | 15日(土) | 16日(日) | 17日(月) | 18日(火) | 19日(水) | 20日(木) |
|---|---|---|---|--|---|---|
|  |  |  |  |  |  |  |

2) 除草剤について

①播種前処理

- 雑草発生が目立つ圃場では、播種前に非選択性茎葉処理剤（ラウンドアップ、プリグロックス等）の散布や、播種直後に土壌処理剤の散布を行う。その際、周囲の水稻等への飛散がない様注意する。
- 降雨が続き「元草除草」を実施できなかった圃場は、次のことに留意し速やかに除草剤を散布する。
- 非選択性茎葉処理剤の使用に当たっては耕起前日でも枯殺可能。（ラウンドアップは1日で吸収移行、散布後1時間後の降雨 OK、プリグロックスは1日程度で効果発現、散布後15分後の降雨 OK）

②播種後処理

- 播種直後に土壌処理剤を散布する。難防除雑草のヒロハフウリンホオズキ、ホソアオゲイトウの発生が多い圃場ではフルミオ、ラクサー乳剤の除草効果が高い。

3) 圃場準備について

- 荒起しは圃場が乾くのを待ち、播種前日～当日に行う。播種後に晴天が予想される場合には、乾燥による発芽率の低下が懸念されるほか、耕起後に雨が降ると水を多く含み、播種が暫くできなくなるため、荒起こしと播種耕起の間隔を空けないようにする。

4) 播種について

○種子消毒

- 紫斑病やその他の雑菌の防除効果が高く、腐敗防止や発芽率の向上に効果がある為、**種子消毒**（クルーザーMAXX、キヒゲンR2フロアブルなど）を実施する。

○播種量

- 大豆の収量を確保するためには、播種時期にあった播種量を選択し、栽植密度を調整する。

| 播種期 | 栽植本数 (本/m ²) | 栽植様式 条間×株間×1株本数 | 播種量 (kg/10a) |
|----------|-----------------------------|--------------------|-----------------|
| 7月1～10日 | 7～8本 | 75×30×2 | 2.5～3.0 |
| 7月11～20日 | 10本 | 75×25×2 | 3.0～3.5 |
| 7月21～31日 | 13本 | 75×20×2 | 4.0以上 |

○播種深度等

- 播種後に降雨が多い予報の場合、2cmの浅めにして播種後の鎮圧は行わない。
- 播種後に晴天が続く場合は、4～5cm前後の深めにして鎮圧を行う。
- 1工程で播種する場合には、碎土率を高めるため、作業速度を遅くする。

令和5年産水稻生育期間気象グラフ (アメダス：佐賀)

三神農業振興センター

